
藤木 大地 Daichi Fujiki, Countertenor

2017年4月、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場に鮮烈にデビュー。

アリベルト・ライマンがウィーン国立歌劇場のために作曲し、2010年に世界初演された『メディア』ヘロルド役での殿堂デビューは、東洋人のカウンターテナーとして初めての快挙で、現地メディアから絶賛されるとともに、音楽の都・ウィーンの聴衆から熱狂的に迎えられただけでなく、日本国内でも大きなニュースとなる。

2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール声楽部門にてカウンターテナーで初の第1位を受賞。

2013年には、ボローニャ歌劇場にてグルック『クレーリアの勝利』マンニオ役でヨーロッパデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。

2017年、ファーストアルバム「死んだ男の残したものは」(キングインターナショナル)をリリース。

2018年には、村上春樹氏原作の映画「ハナレイ・ベイ」の主題歌を担当、同時にマーティン・カツツ氏共演による待望のメジャー・デビュー・アルバム「愛のよろこびは」(ワーナーミュージック・ジャパン)を発表。2020年2月、自身が東京文化会館からオファーを受け企画原案・主演を務めた新作歌劇『400歳のキャストラート』が上演以前より多方面から注目を集め、大成功を収めた。同年10月には、新国立劇場2020/2021シーズン開幕公演ブリテン『夏の夜の夢』に妖精の王オーベロン役、続けてバッハ・コレギウム・ジャパン オペラシリーズ ヘンデル『リナルド』でもタイトルロールを務め、その圧倒的な存在感と唯一無二の美声で聴衆を魅了し、オペラ歌手としての人気を不動のものにする。

バロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーで活動を展開し、デビューから現在まで絶えず話題の中心に存在する、日本で最も注目される国際的なアーティストのひとりである。洗足学園音楽大学客員教授。

オフィシャルサイト <https://www.daichifujiki.com/>

(令和3年8月現在・転載禁止)